

保健医療学部コンピテンシー

1. プロフェッショナルリズム

- ・ 看護師・理学療法士・作業療法士としての責務を自覚し、真心と責任感を持って患者中心の医療を実践する。
- ・ 最善の看護・理学療法・作業療法を目指し、倫理観をもって行動できる。
- ・ 生涯にわたり、看護師・理学療法士・作業療法士の後進の育成に寄与する。

2. コミュニケーション

- ・ 医療人として、対象や多職種の立場や役割を尊重し、思いや考えをわかりやすく伝え合い、思いやりを持って理解し合い、良好な人間関係を築くことができる。

3. チーム医療

- ・ 多職種の専門的役割を理解しつつ、自らの専門性を発揮し、信頼と尊敬をもって患者中心のチーム医療に参加できる。

4. 専門的実践能力

- ・ 科学的根拠と統合された知識・技能・態度に基づき、心理・社会的な背景を把握し、専門職として看護・理学療法・作業療法を実施できる。

4-1) 看護学科

- ・ 対象の健康レベルに応じた看護の問題解決過程が展開できる。
- ・ 看護援助に必要な理論、知識、看護技術（日常生活への援助技術、診療に伴う援助技術）、態度を習得する。

4-2) 理学療法学科

- ・ 患者とその環境に対する理学療法評価を実施し、問題の把握、予後予測、目標設定、治療・援助計画を作成できる。
- ・ 治療・援助計画に基づいて理学療法介入を実施し、再評価、効果判定、計画変更を行うことができる。

4-3) 作業療法学科

- ・ 作業療法士として必要な基礎医学、臨床医学、基礎作業療法学、作業療法評価学、作業治療学、地域作業療法学および関連領域の知識を有し実践で応用できる。
- ・ 身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害のある入院から地域の対象者を理解し、個人あるいは集団の中での治療的な作業活動を通して、作業遂行能力と対人関係能力を高め、対象者の生活障害を軽減ないし取り除くことができる。

5. 社会的貢献

- ・ 専門職としての責務を認識し、保健医療における社会的・経済的動向の把握と看護・理学療法・作業療法の実践を通して、地域住民の医療・福祉に貢献できる。

6. 自己研鑽

- 看護・理学療法・作業療法の質の向上に向けて、研究的視点と探究心を持ち、継続的に自己啓発に努める。
- 科学的根拠に基づく看護・理学療法・作業療法の実践に努める。

7. アイデンティティー

- 看護師・理学療法士・作業療法士として、昭和大学の伝統を重んじ、その名誉を高めるために全力を尽くす。